

開講科目名 / Course	生活援助技術論	
ターム・学期 / Term・Semester	2025年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期 / Second	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	石丸 智子	
担当教員名 / Instructor	秦 さと子、石丸 智子、田中 佳子、神矢 恵美、城井 理美	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	演習	
授業回数	15	
科目の目的と概要	対象である人に対して、安全・安楽に人間的で健康な生活を送ることができるための援助技術の修得を目的に、生活援助法を中心に学習する。また、その背景にある原理や科学性の理解を通して、技術の適用や応用を考えながら演習を行う。	
到達目標	1. 生活援助方法について、原理・原則に基づいて実施できる。 2. 生活援助技術について、安全・安楽を配慮した実施ができる。	
DPとの対応	3. 看護の基盤となる専門知識・技能	
授業計画	01. オリエンテーション、感染予防 : 衛生的な手洗い、スタンダードプリコーション 02-03. 環境調整・休息 : 環境整備、ベッドメイキング、リネン交換 04-05. 活動(1) : 体位交換、ポジショニング 06-07. 活動(2) : 移乗、移送、歩行介助 08-09. 清潔(1) : 全身清拭、寝衣交換、入浴・シャワー浴介助 10-11. 排泄・清潔(2) : 浣腸、おむつ交換、床上排泄、陰部洗浄 12-13. 清潔(3) : 手浴、足浴、洗髪 14-15. コミュニケーション	
その他の授業の工夫	・自己学習力と主体性を育成するため、e-learning (Nursing Skills) による事前課題、授業で扱う課題事例を課している。 ・教員による講義はオンデマンド配信とし、見たいときに繰り返し閲覧可能である。 ・学生の技術内容について、ICT (SIM System, Google Workspace) を活用して客観的な評価と課題の明確化につなげる。 ・グループ演習の成果をもとに事前課題レポートを修正し、技術の習得につなげる。	
時間外学修	・事前学習 : 当該授業に関する Nursing Skills の小テストを授業前日までに個人学習する。担当教員が事前に提示する課題事例に関するレポートを作成し提出する。(8h) ・事後学習 : グループ演習の成果をもとに事前課題レポートを修正し再提出する。また、授業時間のみでは技術習得は困難であるため、反復学習(生活援助技術の練習)を行う(実習室の利用や教員の指導は予約が必要)。(4h)	
評価方法と評価割合	事前・事後課題、授業態度、技術試験を総合して評価を判定する。 配点は事前課題 : 20%、事後課題10%、授業態度 : 10%、技術試験 : 60%とする。 技術試験が6割未満、あるいは事前課題・事後課題・授業態度・技術試験の合計が6割未満の場合は単位認定不可とする。 授業態度はグループ演習での授業参加度や学生デモンストレーションへの参加度を評価する。 原則100%出席とし、遅刻、欠席は減点対象とする。20分以上の遅れは遅刻とし、超える場合は欠席として取り扱う。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。*詳細は別途資料配布	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3](医学書院) 看護技術プラクティス 第4版(Gakken)	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	秦さと子 : 病院の看護師 石丸智子 : 病院の看護師 田中佳子 : 病院の看護師 神矢恵美 : 病院の看護師 城井理美 : 病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	臨床現場や対象をイメージできるように、実務経験から得られた技術のポイントなどを看護技術の原理・原則に基づき具体的にアドバイスする。	